

平成 29 年度

草木ダム環境学習会の報告

草木ダムでは環境に対する取り組みの一貫として職員等の意識向上と技術の研鑽を目的に、毎年環境学習会を開催しています。

今年度は、漁業協同組合によるカワウ被害対策管理について、その生態や内水面漁場である河川や湖での魚類の被害、増殖、将来展望、さらには先端のカワウ被害対策としてのドローンの活用状況などを学びましたので、その概要をご報告します。

日 時 : 平成30年2月22日(木) 14:00~16:00(質疑含む)

場 所 : 草木ダム管理所 説明ホール(別棟)

参加者 : 草木ダム管理所職員ほか 約 20 名



概 要

小型無人機「ドローン」を利用してコロニーでの分解性テープ張りや音響追い払いといった全国発の試みを渡良瀬川などで行い、カワウ対策にご尽力されている両毛漁業協同組合の中島組合長を講師にお招きして、被害の現場から考えるカワウ対策について、お話を聞かせていただきました。

講義の内容としては、カワウはかつて絶滅の危機に瀕した鳥であったが、近年、全国規模で増え続け、渡良瀬川もその例外でなく、草木ダム周辺でもよく見られるようになっており、カワウによる魚の食害や営巣地の糞害は水辺やその周辺の環境悪化や人間生活をも脅かす存在になっているとお話がありました。

また、カワウの生態、姿形、営巣地、繁殖力、特に1羽が魚を1日に500グラムも捕食し、ヤマメやアユなど増殖放流魚の被害額は魚種にもよりますが1羽で2~3千円程度の被害にもなることがあるとのことでした。

次に、ドローン活用のフィールドとして、高津戸ダム湖におけるコロニーでのテープ張りについて、従来の湖面から釣り竿リール式を使った方法では陸上奥深くまで張れなかったものが、ドローンの活用により可能になりより効果的になったこと、ドローンを使用した音響追い払いも有効であり、今後、より効果的な周波数の研究などが進むとの話もありました。さらに、案山子を利用した脅しは、直接的なカワウ対策以外にも一般市民への被害対策の必要性などの啓発にも役だっていることが紹介された。

最後は、両毛漁業協同組合の将来展望、ビジョンについて熱い思いやお話がありあっという間の90分でした。

講義後は活発な質疑応答がなされ、その中の1つを紹介すると「適正なカワウの生息数(目標)はあるのか。」との問いに、中島講師が「我々はカワウの全滅を願うものではない。カワウと共存をめざし、カワウを減らす事よりも、それ以上に魚を増やすことに尽力したい。バランスのとれた生態系を育むという中で、健全な河川環境こそ魚の楽園であり、野鳥の楽園である、どちらも欠けることのない環境を実現したい」と熱く語られたのが印象的でした。



今回、草木ダム管理所職員以外にもみどり市及び群馬県渡良瀬発電事務所からも参加していただきました。また、講師の中島淳志先生(両毛漁業協同組合代表理事長)には資料作成含め貴重なお話をいただき感謝申し上げます。